

第3回

パッケージイノベーションセミナー

—包装のトレンドとこれからの考え方—

開催日：平成25年3月8日（金）
 会場：TFTビル908研修室（東京・有明）
 主催：公益社団法人日本包装技術協会

■ 開催にあたって

現在、パッケージを商品の魅力の一つとして取り上げる商品が多く目につくようになりました。今こそ、パッケージの重要性・魅力的な機能をアピールするチャンスであるといえるのではないのでしょうか。

当会では、新しい包装の価値を創出するような情報の紹介を中心として、デザイン、販売戦略、分析情報、環境対応事例、感性工学・認知工学、消費者へのPR等、様々な分野からのテーマで構成する「パッケージイノベーションセミナー」を開催しております。技術面だけでなく異分野を含めた多くの方からの話を聞き、従来の常識を打ち破る新しい発想の包装を考えるヒントとなればと考えます。

どうぞこの機会に関係各位奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

プログラム

時間	講演テーマ	講師
10:00 ▼ 11:10	<p>【第1部】『パッケージがもたらすサステナビリティへの貢献』</p> <p>私たちを取り巻く様々な環境変化は、既にフォアキャスト（現在の状況の積み上げから未来を予測する）による取組みから、バックキャスト（未来のあるべき姿から現在の取組みを構築する）へのパラダイムシフトを求め始めています。環境配慮領域における新たなパッケージの素材革命、生活者のユーザビリティを追求するリプレースパッケージなどの新しいプロダクト、ビジネスの川上から川下での連携、さらに再生プロセスの進化を含むバリューチェーン全体でのサステナビリティ追求のための企業連携、など様々な取組みが既に始まっており、その一端をご紹介します。これらの企業行動は、生活者に価値として認知されることで真に意味のあるものとなりますが、その様な価値を形成するための要素にも触れ、今後の取組みのあり方にも言及したいと思います。ここからのビジネスに必要なコンセプトとしての「協調と競争の分離と真の差別化」こそが、環境と人間の未来を考えた責任ある企業行動を形づくるのではないのでしょうか？</p> <p>既にグローバルな視点で始まりつつある取組みと、国内での動きを紹介しながら、バックキャストに基づくこれからのパッケージングのあり方について、皆様にも考えていただけるようなセミナーにしたいと考えています。</p>	<p>凸版印刷株式会社 生活環境事業本部 開発販促本部 部長 中井 裕太 氏</p>
11:10 ▼ 13:10	<p>【第2部】『高齢者疑似体験及び昼食休憩』*フリータイム</p> <p>(専用器具を身につけての包装開封テストの実体験) 耳栓や特殊眼鏡、手足の重りなどを装着して、高齢(75~80歳代)になった時の身体的機能低下や心理的变化を疑似的に体験する。 *参加者の方が自ら持参した商品を使つての体験も可能です。</p>	<p>公益社団法人 長寿社会文化協会</p>
13:10 ▼ 15:10	<p>【第3部】『ヨーロッパ社会動向とペントアワード2012年受賞パッケージから見るデザイントレンド』</p> <p>ヨーロッパ社会動向とペントアワード2012年の受賞パッケージから見るデザイントレンドを紹介し、パッケージデザインの持つ力と可能性をご説明させて頂くつもりです。</p> <p>環境問題への意識がますます高まるパリでは、導入が懸念されたAutolib'も定着し、オーガニック専門の小型・大型店舗も増える一方で、私が渡仏した90年代初頭の日本はパブルがはじけたとは言え、その経済力は世界から注目される存在でした。しかし2001年に帰国以来、日本の存在感は弱まる一方で、健康意識の高まりにより世界中で日本食は大人気ですし、若者を中心に日本のサブカルチャーやファッションへの関心は強くなるばかりです。今やグローバルスタンダードでのグローバルゼーションは通用せず、文化・伝統・地域性にフォーカスするローカリゼーションこそが、真のグローバルゼーションになり得ると確信しています。</p> <p>ネット社会の定着により、個人ですら世界に向けての発信が可能になった今、日本企業は日本の伝統文化や独自の技術、デザインによって、世界に注目されるブランドや商品を作れるはずで、1990~2001年のパリ滞在、2001~2012年の日本での生活から感じ、また考えた様々なことを盛り込みつつ、パッケージデザインによって世界進出を果たそう!と頂けるようなレクチャーにしたいと思っています。</p>	<p>株式会社 ハイアンド・パートナーズ 代表取締役社長 Pentawards 日本代理人 井澤 初美 氏</p>
15:20 ▼ 16:50	<p>【第4部】『期待を包む』</p> <p>私達が普段、何気なく感じている「不安」や「期待」ということに科学的な研究の視座を設け、その心理のメカニズムを探り当てようとする期待学の考え方を紹介する。同時に、その考え方を応用した新しい理論に立脚したパッケージや包装技術の未来について考える機会としたい。</p> <p>*『期待学』…その視座と展望 期待学とは、使い手の心に強く訴えかけるモノを挑戦的に提案し、それが成し得なかった場合にもその被害を最小限にとどめる方法論をさす。</p> <p>「不安と期待」…不安が無ければ期待も無い。不安は単なる恐怖ではない。不安定で不確実な心の状態をさす。不安は存在の矛盾から生じる心理か、あるいは無いという観念に根源を有するものか、毎日の生活の中で私たちは不安と期待に揺られて暮らしている。</p> <p>「期待という心理」…期待は移ろう心の状態とともに遷移する。期待は刻一刻とその姿を変えてとどまる事が無い。期待をいかに意識し、その有り様を探る事は製品やデザインにとって欠かせない仕事である。</p> <p>「期待値を計る」…期待はずれ、期待通り、そして期待以上。期待感はずれとどろく先で評価される運命にある。事前期待、事後期待、遷移する期待感をいかに捉え評価するかを考える。</p> <p>「魅力は期待以上」…期待を超えたモノやサービスは驚きや魅力という感情に直結し、期待を予測する心を強く刺激する。魅力は期待以上への好感を伴う予感であり予測である。</p> <p>「期待通りの製品という限界域」…期待通りの製品は品質や性能を示して多くの消費者を説得しようとしているかもしれませんが、つまり期待通りとは、十分な性能や品質評価に満たす説得力を意味している。</p> <p>「期待学的なモノ作りとサービス」…例えばギフトやパッケージは使い手に期待を呼び起こす事を目的としていると思われる。</p>	<p>トライボッド・デザイン 株式会社 CEO 東京大学大学院 工学系特認教授 中川 聡 氏</p>

講演者ご紹介

●中井 裕太 氏

凸版印刷(株) 生活環境事業本部 開発販促本部 部長

早稲田大学法学部卒。トッパンアイデアセンター、本社販売推進センターで、マーケティングリサーチ、ビジュアル・マーチャンダイジング、スペース・デザインを経験し、生活事業本部へ。商品企画、パッケージ企画を手がけると共に、環境エネルギー側面とユーザビリティ側面の追及を通じた新たな価値の創造を目指している。

●井澤 初美 氏

㈱ハイ・アンド・パートナーズ 代表取締役社長 / Pentawards 日本代理人

1985～86年カーデザイナー・田中徹氏の通訳兼コーディネーターとして、サーブとルノーデザインプロジェクトを担当。両社ともに上梓。1986～90年 フランス香料会社ロベルテ日本支社マーケティング、フィットメール上梓を担当。1990～2001年 パリ・デザイン会社カレノール日本担当、1998～2001年東京支店長兼務。同6月カレノール退社帰国、㈱ハイ・アンド・パートナーズ設立。2003年ジェラルド・キャロン(カレノール創業者)とジャンフィリップ・ニュエル(建築家)日本代理人。2007年ペントアワード日本代理人。

【著書】1998年キャロン著書「メッセージするデザイン」主婦の友社出版。2001年「輝いている31Femmes(31人の女性)」の一人として掲載。

●公益社団法人長寿社会文化協会

長寿社会に関する社会参加活動の効率的な組織化を推進すると共に、長寿社会文化に関する調査・研究・啓発活動、高齢者の健康と生きがいづくりの支援活動、地域の相互扶助機能の活性化促進活動を行っている。

●中川 聡 氏

トライボッド・デザイン(株) CEO / 東京大学大学院工学系特認教授

1987年よりプロダクトデザイナー、デザインコンサルタントとして、ユニバーサルデザインの評価法PPPやリードユーザーを駆使した独自のデザイン調査法を開発、ユニバーサルデザインの考え方と技術の体系作りを先導してきた。2007年より東京大学で教鞭をとり、2006年から認知心理学や感性工学の考え方を取り入れた「期待学」の理論と定義を発表し、新たなデザインエンジニアのテーマとして注目されている。

【著書】「ユニバーサルデザインの教科書」「ユニバーサルデザイン実践マニュアル」「グラフィックデザイナーのためのユニバーサルデザイン実践テクニック51」

開催要領

日時: 平成25年3月8日(金) 10:00～16:50

会場: TFTビル908研修室 東京都江東区有明3-6-11

定員: 60名

参加費: 会員19,950円(消費税5%、テキスト代含む)
一般30,450円(消費税5%、テキスト代含む)

申し込み方法

- 下記申込書に必要事項を全て記入の上、FAXにてお申し込みください。協会HPからのお申し込みも出来ます。協会HP: <http://www.jpi.or.jp>
- 申込みされた方には後日参加証と請求書をお送りします
- 開催1週間前からの参加費の払い戻しは致しません。申込みされた方が都合の悪い場合、代理の方の出席は差し支えありません。(当日、名刺をご提出いただきます)

お問い合わせ並びにお申込み先

公益社団法人日本包装技術協会

パッケージイノベーションセミナー係 担当: 竹内

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F

TEL.03(3543)1189/FAX.03(3543)8970

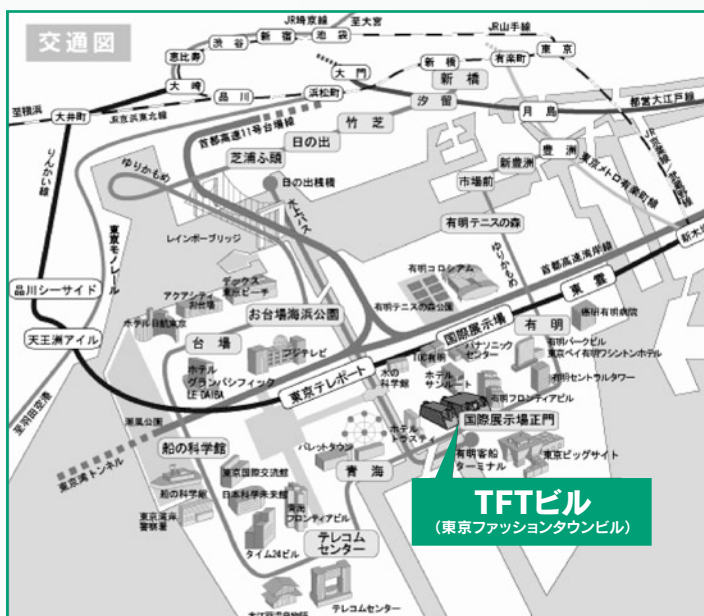
e-mail: takeuchi@jpi.or.jp

会場案内図

【TFTビル9F 908研修室】 東京都江東区有明3-6-11

交通手段: ●ゆりかもめ「国際展示場正門駅」からブリッジで直結徒歩1分

●りんかい線「国際展示場駅」から徒歩5分



【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「第3回パッケージイノベーションセミナー」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、個人情報を第三者に開示・提供することはありません。

第3回パッケージイノベーションセミナー参加申込書

公益社団法人日本包装技術協会 竹内行

FAX. 03-3543-8970

No.

会社名					
所在地	(〒)				
電話				FAX	
参加者	氏名	所属役職		e-mail	
	氏名	所属役職		e-mail	
	氏名	所属役職		e-mail	